

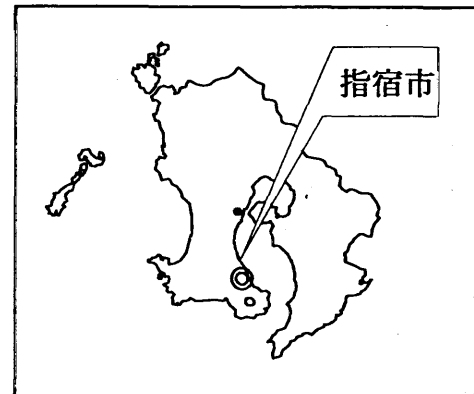
## ”ともれ” 廃止へのチャレンジ

— より良い地域づくりを目指して —

指宿市岩本漁協婦人部  
部長 高橋 たき子

### 1. 地域の概況

私たちの住む指宿市は、鹿児島県薩摩半島の南東部にあり、人口は31,284人で、別名薩摩富士と呼ばれる美しい開聞岳を南に臨み、九州最大淡水湖の池田湖と日本唯一の天然砂蒸し温泉で有名である。また毎年1月にある指宿菜の花マラソンは全国のトップをきって開催される。(図1)



【図1】位置図

### 2. 漁業の概況

市内には、南部に指宿市漁協、北部に私たちの指宿市岩本漁協がある。当初は今和泉漁協として昭和24年に設立され、町村合併のため昭和29年に指宿市岩本漁協になった。現在、正組合数は119名、准組合員数32名、主な漁業種類は一本釣、小型底曳、刺網などであり、平成11年度の総水揚量は676トン、総水揚金額は約5億5,300万円である。

### 3. 組織と運営

指宿市岩本漁協婦人部は、全漁婦連が設立された年と同じ昭和34年に10名程度の部員で設立され、現在、役員15名を含む部員116名で活動している。(表1)

#### ① 貯金活動

部員を12班に分け、毎月当番制で行っている。(表2) 昨年1年間の貯金額は約1,400万円である。日頃の貯金運動に対して、漁協から2年に1回、日帰り旅行がプレゼントされ、婦人部の預金者であれば誰でも参加でき、楽しみな行事の一つとなっている。

#### ② 魚食普及活動

婦人部の魚料理講習会の他に、数年前までは地域の子供や学校の先生方を交え、魚の捌き方などを教えていた。昨年7月には、NHK鹿児島放送局から「フレッシュ情報かごしま〜かごしまいい味旬の味〜」という番組の中で、地元で獲れるヒゲナガエビを使った料理を紹介して欲しいとの依頼があり、副部長と私が出演した。番組放送後、「エビの唐揚げは、エビを丸ごと揚げるのでカルシウムも豊富、いい普及ができたね。」などと、あちらこちらから言葉を頂き、改めて、マスコミの力の凄さを感じた。毎年12月にある「指宿産業まつり」では、同じくヒゲナガエビを入れた手打そばを出し、来場者の好評を博するなど、地元産品のアピールに努めている。

### ③ 地域との交流

浜そうじは、年3回、婦人部が中心となり、湾西・湾東公民館、小中学校PTA、子供会が一体となって行っている。

地元公民館では、平成元年よりゴキブリだんご作り教室を開いており、材料費500円という値段の安さと駆除効果の高さで婦人部員だけでなく、地域の主婦に大好評である。「あまめがおらんごなって、良かどね。(ゴキブリがいなくなって、いいよね。)」などと楽しく話しながら、作っている。家の中だけでなく、漁船の中でも使用されている。(図2)

また、漁協主催の「えびす祭り」の日には「六月灯」があり、漁協青壮年部と合同で出店し、漁協青壮年部や地元住民との交流を図るいい機会になっており、参加者に楽しんでいただけるよう、また自分たちも楽しめるよう、毎年アイデアを出し合っている。

10年程前までは、漁協隣の漁村センターで会費制で結婚式も行っていたが、施設が古くなったり結婚式の様式も変わったりで、今では行われなくなった。現在、その当時結婚式を挙げた人たちが、婦人部の中堅どころとなって活躍している。

## 4. 活動課題選定の動機

ここ指宿市岩本地区では、以前から近所のお通夜に必ずお茶菓子を持って行く慣習があった。その来客数は、少ないところで150名から200名、多いところでは400名から500名であった。そして、通常の一七日(初七日)、四十九日ひとの他にも、葬式の翌日に一七日、四十九日をまとめた法事をするのが慣例で、お通夜にお菓子を持って来て下さった方全員を呼んで食事を振舞うので、遺族は葬式が済んでも一息つく間もなく、翌日の法事の準備に大忙しであった。となり近所からお手伝いをもらうとはいえ、何百人分もの食事の準備や対応をするのは大変な苦勞があったのである。故人を悼む気持ちの余裕もなく、私たち主婦にとっては頭の痛い問題であった。この状況を何とか改善できないものかと誰もが思っていたが、慣習でもあるし、第一、この意見をどこでどう取りまとめればよいのか分からなかった。

## 5. 活動の状況及び成果

### ① 廃止の提案・婦人部内での呼びかけ

そんな時に部員からの提案を受けて、私は、部長職も慣れてきた3年目の平成7年の総会の議題その他事項の中に、「”ともれ”(法事)を廃止しよう。」と入れた。

総会では、この提案に「待っていました。」と言わんばかりの賛成の声がどっと上がり、参加部員全員一致ですんなりと決まった。そしてみんな喜び合った。今でもあの時の感動は忘れられない。なぜなら、日頃から廃止の声をたびたび耳にしていたし、自分でも思っていたこととはいえ、こうすんなりと決まるとは思っていなかったからだ。二重の法事はどうにかしたい、重荷であると、一人一人が感じていたことの表れだと思っている。

そして、その場で(1)「葬式後の法事はやめる」(2)「通夜にお菓子、その他いっさい持って行かない」(3)「初盆の線香代は500円とし、お返しはやめる」(4)「入院時にお見舞いをもらっても、お互いという気持ちで、お菓子・ジュース等の小さいお返しでもこれをやめる」の4項目がトントン拍子に決められ、書き記された。(図3)

しかし、4項目全てを一度に始めるのは困難なことであり、まず手始めに(1)「通夜にお茶菓子を持っていくのをやめましょう。」と呼びかけた。みんながお菓子を持って行かなくなれば、食事に呼ばれることもなくなり、余計な法事もなくなると考えたのだ。すると、名前を言わない苦情の電話が私のところへ来た。地元のお店からだとは想像が出来た。その方の言い分も分かる。みんながお茶菓子を買わなくなれば、お店の売上に影響するからだ。どこかで反発がでるとは予想していたが、こういう形で来るとは思ってもみななかった。私は相手に、この取り決めは勝手に自分一人でしたわけではなく、漁協婦人部員の総意であることを伝えた。この反発があったことで、私たちの法事廃止へ向けての気持ちは、更に強まった。

## ②地域への呼びかけ

次に、この活動を婦人部員だけに留まらず、地区全体にも広めようと思い、婦人部総会から一週間経たない内に、私は指宿市岩本地区公民館長へ取り決め事項を持って、訪ねて行った。思いの外、地区公民館長もこれに快く賛同して下さり、地区の公民館長会に諮り、これを地区全体に広げることが決まったのである。その時、公民館長からは「葬式後の法事の廃止をしないとイケないと思っていた。」と言われ、私は心強く感じた。その取り決め事項は、公民館から8つの区(浜西、浜東、麓上、麓下、岩本東、岩本中、上西、上東)へ回覧してもらうことになった。

## 6. 波及効果

回覧で知った地区の人々は口々に「いいことを決めてくれて、ありがとう。」と言って下さった。簡素化への動きが前へ前へと進みつつあったが、まだ不安の多い私にとって、その言葉は『やって良かった。』という安心感に変わった。この漁協婦人部から始まった動きが、地区全体に知られ、みんなに受け容れられたことは、婦人部員として誇りに思っている。

これにより、葬式の翌日の法事は岩本からなくなった。今までの二重に法事をするという特殊な慣習がなくなり、世間並みになったのである。しかし、通常の一七日、四十九日などの法事まで簡素化はせず、各家庭によって違うが、いとこの関係位までを呼び、40~50名で行っているようだ。取り決め事項の中で、(2)「通夜に来た人には、お茶だけ出す」と決めたが、葬儀社がお菓子を用意しているため、今ではなかなか守られてはいない。これはもう仕方のないことであり、各家庭に判断を任せている。(3)「初盆の線香代は500円とし、お返しはやめる」は、のし袋に500円硬貨を入れるのは体裁が悪いため、今では1,000円とし、お返しはしていない。(4)「入院見舞いへのお返し廃止」については、今では本当に何もなくなり、「ありがとうございました」の感謝の言葉だけで本来の姿になっている。

この漁協婦人部から始めた簡素化への取組は、決して、亡くなった方への供養や人との付き合いをおろそかにしようとする気持ちがあったからではない。今までしてきた無理や無駄を省いて、これからも末永く供養すること、更に心のこもったお付き合いをすることへのきっかけになったのではないかと思っている。

## 7. 今後の課題と問題

最近では、婦人部員の高齢化に伴い、部員数が減少している。私たちの将来の活動のことを考えると不安であり、漁業不振からの脱却を願っている。これまで、先輩方のご指導やご協力があって、ここまで来れた。先輩方の活動を土台として、自分たちの後に続く人たちに安心してバトンを渡せられるよう、地道ながら魅力ある婦人部活動をして行きたいと思う。

天然石けんの普及もこれからの目標である。ここ数年、よく耳にするようになった環境ホルモンは、私たちにも深刻な問題だ。「指宿産業まつり」などのイベントでも、できるだけ天然石けんを知ってもらい、良さをPRしてきた。世間は、合成洗剤の派手な広告や宣伝の方に目を向けてしまいがちだが、私たちは、今までもしてきたように、これからも天然石けんへの理解を深めていただくよう、根気よく運動を進めて参りたい。そして、それは私一人の実績ではなく、支えてくれる部員、共に動いてくれる役員全員の実績である。

最後に、自分たちが住んでいる指宿市岩本地区が、更に明るく、住みやすい環境になることを目指し、頑張っていきたいと思う。

【表1】 平成11年度活動内容

月 日	主 な 事 項	出 席 者
11.4.2	監 査	4名
11	総 会	82名
21	県漁婦連総会	19名
25	浜そうじ(クリーン指宿)	全員
27	新旧役員昼食会	16名
5.10	ゴキブリだんご作り	109名
11	〃	68名
7.3	役員会(注文販売)	11名
6	指宿地区水産業改良普及事業推進協議会	1名
10	役員会(六月灯について)	7名
19	六月灯	全員
	六月灯反省会	13名
8.1	浜そうじ	全員
30	三役会	3名
9.3	役員会(貯金者旅行について)	12名
22	貯金者旅行	54名
10.17	浜そうじ	全員
25	湾西地区研修会	9名
26	部長会	3名
11.9	農山漁村きらめく女性大会	3名
13	ふるさと農林水産まつり(~14)	4名
12.1	役員会(注文販売)	11名
4	指宿産業まつり	11名
12.1.2	えびす祭り2日祝い	2名
12	漁協総会	3名
14	県漁業振興大会	2名
2.11	料理講習会	20名
3.2	役員会(総会の件)	11名

【表2】 貯金活動12班

班 名	人 数
麓	12名
中	10名
岸 下	16名
高 田	16名
浜 村	9名
破 戸 下	17名
破 戸 中	11名
破 戸 上	8名
上 西	3名
十 石	4名
瀬 崎 上	4名
瀬 崎 下	6名
合 計	116名

## 【図2】ゴキブリ団子の作り方

### 家からゴキブリを追いはらおう!

これから、いよいよ夏本番

ごきぶりさんにとって最も過ごしやすい季節がやってまいりました。  
お宅では、うろうろしていませんか？

今こそ、『ゴキブリ団子』の出番です。

作ったことのない方は、簡単ですので是非作ってみてください。

“あつ”というまにいなくなるはずですよ。

すでに利用されてる方は、まだ使ってない方に分けてあげてください。

#### ゴキブリ団子

##### ☆材料

ほう酸（粉末）	500g
玉葱	300g
小麦粉	140g
砂糖	大さじ2
牛乳	大さじ1

##### ☆作り方

- ① 玉葱の皮をむき、おろし器でする。  
(ミキサーを使用するときは、玉葱を刻んで牛乳を入れ、粉碎する)
- ② 材料を全部混ぜ合わせる。(※水は使用しない)
- ③ 一口大の団子をまるめ、盆の上にビニールを敷いて並べる。
- ④ 団子の表面に白い粉がふくまで、直射日光にあてる。

※ 浅い器に入れ、ゴキブリの住み家や通り道などに置く。

### 【図3】漁協婦人部総会における決定事項

1. 通夜に お菓子、その他 いっさい持って行かない。  
気持ちのある人には 線香をあげに行く。  
通夜に来た人には お茶だけ出す。
2. 葬式は今までどおりとし 葬式後のともれはやめる。  
火葬場に行った人の接待で終わる。  
その代わり 従来通り 一七日 四十九日の供養は 心をこめてする  
どこまで お客さんと呼ぶかは、それぞれにまかせる。
3. 初盆の 線香代は500円とし、お返しはやめる。
4. 入院時にお見舞いをもらっても お互いという気持ちで  
お菓子・ジュース等の小さなお返しでもこれをやめる。

平成7年4月